

第 24 回サンパウロ・フォーラム開催される

1. 新自由主義と戦い、各国の主権を守った 28 年の歴史

7月15～17日ラテンアメリカ・カリブ海の左派勢力が結集する第24回サンパウロ・フォーラムが、「地域の団結の強化」をテーマに、キューバの首都ハバナ市で開催されました。会議には、昨今の地域の政治的緊張とキューバ政府の努力もあり、51カ国から112の政党を含む168の政党、政治組織を代表して625名が参加し、かつてない規模となりました。



サンパウロ・フォーラム（以下 SPF と略）は、1990年ブラジル労働党（PT）が提唱して以来、90年代にソ連・東欧の旧体制が崩壊し、米国の一極支配が強められ、社会主義への期待が薄れる一方、新自由主義政策が跋扈する中で、地域の左派勢力の意見・経験交流の場として発展しました。当初は20カ国、60組織の参加でしたが、次第に貴重な交流の場として発展し、現在は51カ国、168組織が参加しています。浮き沈みはありますが、現在フォーラム参加政党が政権与党となっている左派政権の国は、ボリビア、キューバ、エクアドル（最近姿勢が揺らぎ問題となっています）、エルサルバドル、ニカラグア、ウルグアイ、ベネズエラ、ドミニカ共和国、メキシコ（本年12月発足）9カ国で、地域の33カ国の27%を占めます。これらの国々では、程度の差はありますが、新自由主義政策が否定され、米国の干渉政策に自主的な立場から反対しています。こうした地域は、地球上の他の地域にありません。

また、フォーラムに参加する政党は、米州諸国民ボリーバル同盟（ALBA、2004年12月）の結成、米州で米国とカナダを除く地域統合組織、ラテンアメリカ・カリブ海共同体（CELAC）の設立（2011年12月）、ラテンアメリカ平和地帯宣言（2014年1月）において中心的な役割を果たしました。

2. 米国と保守派の反転攻勢により、切り崩された国も

2008年から米国と保守派勢力による厳しい反転攻勢が展開され、昨年はブラジルで労働党の反動勢力の策略で、ジルマ・ルセフ大統領が弾劾、罷免され、ベネズエラ（2017年4～7月）とニカラグア（2018年4～7月）で米国の後押しによる野党の過激な暴力をめぐる政府の厳しい取締りをめぐり、フォーラムの一部参加組織、知識人が離脱する例が見られます。エルサルバドルでは、ラファエル・コレア前大統領を親米に傾いたレニン・モレーノ現



大統領が訴追しています。そのことから、今回は、ラテンアメリカ・カリブ海の団結の強化が中心的課題に置かれました。

3. 多彩な指導者が参加

フォーラムには、エボ・モラーレス、ボリビア大統領、ディアス・カネル、キューバ国家評議会議長、サンチェス・セレン、エルサルバドル大統領、ニコラス・マドゥーロ、ベネズエラ大統領、ラルフ・ゴンサルベス、セントビンセント・グレナディーン首相の5人の現国家元首、ジルマ・ルセフ前ブラジル大統領、ラウル・カストロ前国家評議会議長、マヌエル・セラヤ元ホンジュラス大統領、マルティン・トリホス元パナマ大統領、ホアキン・チサノ、元モザンビーク大統領の5名の元国家元首、ケニー・アンソニー、セントルシア前首相、ダニエル・ダグラス、セントクリストファー・ネイビス前首相、リカルド・パティニョ、エルサルバドル元外相、ホルヘ・タイアーナ元アルゼンチン外相、チリのバチェレ前政権の閣僚クラウディア・パスクワル女性・ジェンダー平等相、60人の国会議員、ジェイドコル・ポレンスキー、メキシコ国家再生運動書記長、オスカル・ロペス・リベラ、プエルトリコ独立運動指導者、イグナシオ・ラモネ元ルモンド・ディプロマティック編集長、アティリオ・ボロン、ブエノスアイレス大学教授などが出席しました。拘禁中のルイス・イナシオ・ルーラ元ブラジル大統領、レニン・モレーノ、エクアドル政府により不当にも国際指名手配を受けているラファエル・コレア元エクアドル大統領は、それぞれ連帯のメッセージを会議に寄せました。政府と和解し、政治活動に転じたコロンビアの共同革命勢力（FARC）は、コロンビア政府から出国許可が下りず、不参加となりました（FARCは、7月20日協定通り10名が国会議員として議会に登場）。文字通り、ラテンアメリカ・カリブ海の主要な左派指導者、知識人が参加し、活発に地域の現状について議論を交わす場所となりました。

4. 各指導者、アメリカ帝国主義の干渉分断政策と地域の団結の必要を強調

フォーラムで各指導者は、次のように発言しました。

ルセフ元大統領は、演説で、「相違点よりも共通点が多いのでその点で団結する必要がある



と。アメリカ帝国主義の支援を受けて、またブラジルの経済的に不利な状況を利用して、ブラジルの寡頭制支配勢力とルーラ政府が推進した社会政策でもっとも恩恵を受けた人々でさえも、反ルーラの役割を果たしている。しかし、多くのブラジル国民は、犯した誤りと変革の急進化を経験した中で、今日、ルーラの大統領出馬を支持している」とルーラが国民の中で強い支持を受けていることを強調しました。

セラヤ元大統領は、「自分は、米州諸国民ポリーバル同盟 (ALBA) に加盟後 8 カ月後の 2009 年 6 月軍事クーデターにより放逐されたが、もう一度その機会があれば、この反帝国主義、反資本主義、民主的、連帯的な協定に、一層の自信と尊厳をもって署名したい」と述べました。

パティーニョ元外相は、「FSP は、地域で新自由主義を押し付けようという新たなたくらみがある中で、左派の肯定的な経験も失敗も議論する機会を提供している。ラテンアメリカで帝国の攻勢に対処するために政党や社会運動の戦略を議論し、メディアの部門での行動を設定することが特に重要である」と、経験の分析が重要であることを強調しました。

ホルヘ・タイアーナ元アルゼンチン外相は、クリスティーナ・フェルナンデス前アルゼンチン大統領の言葉として、フォーラムにおいてフィデル・カストロが団結のために尽くした努力は大変なものであったと述べました。

エルサルバドルのサンチェス・セレン大統領は、「左翼として、われわれは、効果的な政策でもって引き続き人民の期待であり続けなければならない。われわれは、より良い世界が可能であることを確信させる汲みつくせない源泉である。ニカラグアは、中米地域で最も成長を遂げ、安定した国である。オルテガ大統領が、暴力のエスカレーションを阻止し、市民の生活の向上、平和、民主的安定を実現できるように対話を追求している決意を支持する」と隣国のサンディニスタ政権への固い支持を強調しました。



エボ・モラーレス大統領は、「フィデルに連帯について聞いたところ、フィデルは、連帯とは、もっているものを分かち合うことであり、余っているものを与えるものではないと、答えた。これこそ、真の連帯である。軍事干渉、NATO のような国際機関の侵略について考えれば、資源支配の目的を持っているのは明らかである」と国際連帯の本質を指摘しました。



ルーラ元大統領は、ビデオ・メッセージで、「ブラジルの右翼は、民主主義と共存できない。メディアと司法権力でもって、われわれが政権に復帰し、ブラジル国民の威信、自由、諸権利を復活することを阻もうとしている。1990 年フィデルとともに、ラテンアメリカ・カリブ海の左翼に対して、当時ヨーロッパの現存社会主義制度が終焉しつつあるとき、世界は、政治経済で力を持ってきている新自由主義に苦しんでおり、徹底した変革を検討する会議を提案した」とフォーラムの設立事情を説明しました。

ラファエル・コレア元大統領は、ビデオ・メッセージで、「帝国の残忍な迫害により、私はこのフォーラムに出席できない。ブラジルのルーラ元大統領、エクアドルのホルヘ・グラス元大統領は、同様な右翼の迫害を受けている。前世紀の「コンドル計画」(70年代CIAの支援のもとで南米の軍事政権が行った暗殺計画)のように、ただし、現在の方法は違ってはいるが、左翼の公人を中傷することが計画的に行われている。左翼は団結して一步も引きさがらず戦う必要がある。意見の相違は勝利のあとで決着 演壇上のディアス・カネル、マドゥーロ、ラウル、エボを付けばよい」と、地域で指導者への法的迫害が計画的に行われていることを指摘しました。



マドゥーロ大統領は、「われわれは、ボリーバル革命に対する非通常戦争に直面している。われわれは、戦闘の最先端におり、恒常的に侵略を受けているが、決して戦いを止めることをしないし、嘆くこともしない。ベネズエラをあらゆることで悪く言うことは簡単である。この数カ月、米国に後押しされた、この地域のいろいろな国の干渉的動きに直面した。20世紀の古い独裁制は去ったが、寡頭制支配層が戻って来て、復讐しようとして、ルーラやクリスチーナを迫害している。われわれは、平和を獲得し、維持しようとしている。ベネズエラ国民は、アメリカ帝国主義に屈することはない。われわれに対する近年のキャンペーンによれば、わが国と指導者に対するいかなる侵略も正当化されるであろう。しかし、ベネズエラは、平和と独立を守ることができ、引き続き勝利を収めるであろう」とアメリカの侵略と戦っている姿勢を強調しました。



ディアス・カネル議長は、「ラテンアメリカで現在起きていることは、政治的、経済的勢力は、地域の人々の自由な自決権を阻害していることである。米国は、一方的な抑圧的な不当な政策、モンロー主義を新たに持ち出して来ている。その同盟国の中には、OAS(米州機構)のスキャンダラスな干渉に加わっている国々もある。メジャーのメディア、民間新聞、非通常戦争の一環としてのソーシャルネットワークの陰謀が、意見の主流を作り、混乱と失望を生じさせている。チャベス主義のベネズエラ、サンディニスタのニカラグア、ルーラのブラジル、エボ・モラーレスが率いるボリビアの民主的人民的革命に対する彼らの行動を断固非

難する。アメリカ帝国主義のあらゆる策謀にもかかわらず、ボリーバル、マルティの大祖国の炎は堅持されている。キューバにおいては、資本主義への転換はあり得ないし、米国に対するあらゆる形の譲歩もあり得ない」とアメリカ帝国主義の侵略性を指摘しました。



マチャド・ベントゥーラ、キューバ共産党第二書記は、「米国の政策は、国と社会の最高の指導勢力としての共産党の権威を弱めようとする重要な目的を持っている。米国の分断政策に対して、われわれの政策は国民的、革命的、社会主義的団結である。現在の米国政権及びその補佐官たちは、ラテンアメリカの民主主義については全く考えておらず、その力を回復し、カリブ海諸国とカリコムを努力を粉砕しようと考えている」と米国政府の分断政策を指摘し、それにたいして団結を呼びかけました。

5. 最終宣言と行動計画

こうした発言のもとに会議は、最終宣言を発表し、次のことを強調しました。

- ラテンアメリカは、現在、右翼と地域の支配階級の反動的反転攻勢にさらされている。この反転攻勢は、革新勢力に後退をもたらした。
- 主要な左翼の指導者達の政策の司法断罪、信用の失墜という戦略が存在している。
- 米国のトランプ政権の侵略的傾向は、ラテンアメリカ・カリブ海平和地帯宣言を覆そうとしている。
- 米国とその同盟国は、地域が資本主義に向かって後退している段階に入ったという観点を強化している。
- 世界平和を擁護する。地域ではラテンアメリカ平和地帯宣言を厳守する。
- 主権を強化する地域統合の意識を各国民の間で広める。
- ラテンアメリカ・カリブ海共同体（CELAC）の擁護を最優先課題とする。
- 帝国主義の胎内で生まれている軍国主義を非難する。
- 地域が米国の権力のエリートに従属するという馬鹿げた受け入れられない考えを断固拒否する。
- 左翼と国民運動に団結し、組織を進め、闘うように呼びかける。
- 革新政府、反帝国主義政府の経験を堅持する。
- トランプ政権の移民政策に反対する。
- 米国政府により利用されている米州機構（OAS）の干渉主義的役割を、道理をもって非



最終宣言を読み上げるモニカ・バレンテ執行書記

難する。

- ヨーロッパの左翼とラテンアメリカ・カリブ海の行動の緊密化を図る。
- ベネズエラに対する、アメリカ帝国主義、ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海のその同盟国による非通常の、広範囲の戦争を非難する。
- 新自由主義への復帰に反対する地域の諸国との連帯を堅持する。
- ニカラグアの内部問題に対する米国の干渉政策を断固拒否する。
- カリブ海の島嶼国の奴隷制による損害の補償の請求を支持する。
- 米国のキューバ経済封鎖解除を支持する。
- 米国のよるキューバのグアタナモ海軍基地の返還を要求する。
- 地域における米国の軍事基地撤去を要求する。
- ルーラ元大統領の即時釈放を要求する。
- クリスチーナ・フェルナンデス、ルーラ・ダ・シルバ、ラファエル・コレア元大統領に対する迫害をやめるように要求する。
- 米国政府は、国際的なシオニズムであり、米州でもっとも反動的な政府であるが、コロンビアの寡頭制支配勢力が、南米における多国籍企業の利益のために引き続き突撃部隊の役割を果たしている。中南米・カリブ海諸国の中の1カ国コロンビアが侵略的な NATO のメンバーとなっていることから、この戦略と闘うことが重要である。



フォーラムでは、特に問題となっているベネズエラとニカラグアについて、最終決議でこのように述べています。

アメリカ帝国主義とそのヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海の同盟国によりグローバル革命に対して行われている非通常戦争及び広範は側面での戦争を非難する。これは、米国政府にとってグローバル革命政府を即座に打倒する戦略目標となっている。したがって、われわれにとっては、最大の連帯目標である。

サンディニスタ・ニカラグアの内部問題に対する米国の干渉政策を断固拒否する。ニカラグアで、アメリカ帝国主義は、その覇権主義的利益に協力しない国々に適用してきた方式、つまり、右翼クーデターのテログループの陰謀と不安定化行動によって、暴力と破壊、殺人を引き起こし、対話の探求を破壊する方式を導入している。対話こそは、現在の危機を克服し平和を達成する最善の道であり、ダニエル・オルテガが率いる FSLN 政府が推進してきた社会変革—顕著な貧困と格差の削減—の道を継続するには不可欠である。



テーマごとの部会も開催

また、今後の行動計画として次のことが決まりました。

- ルーラの即時釈放を求め、この目的の国際キャンペーンを開始する。
- 来る 9 月からラテンアメリカ・カリブ海の国民に支持されている指導者の政治的迫害に反対するキャンペーンを展開する。
- ラテンアメリカ・カリブ海を平和地帯として擁護する。コロンビアにおける平和の過程のオブザーバーとして参加する。
- 政治的養成学校ネットワークを創設する。
- 加盟政党の宣伝政策を強化する。

6. ニカラグア問題について

なお、フォーラムとの関連で、ウルグアイの上院で、オルテガ政権批判、辞職を求める決議が全会一致で可決されました。またコスタリカの拡大戦線（FA、2004 年創立の統一戦線、



国会議員 1 名) は最終宣言には署名せず、帰国後最終宣言のニカラグアの箇所で意見が異なると発表しました。ウルグアイの統一戦線組織、拡大戦線（FA、10 政党で構成）は、上下両院で多数派ですが、野党保守 2 党の議席数と拮抗しています。上院での議論は、保守コロラド党、国民党の決議賛成演説は、米国国務省が言うような内容で、ニカラグアの実情を反映したものではありませんし、また

ホセ・ムヒカ前大統領（人民参加運動党 MPP）の発言も情緒的で、オルテガ大統領批判は事実をあげることなく具体性を欠いているものでした（国会の様子は：https://www.youtube.com/watch?v=lctXrp_Ryhs）。

この点をベネズエラの社会主義統一党のディオスタド・カベージョ副議長は、「アメリカが策謀を図って、一握りの暴力グループが破壊活動を行っていることを無視している。ニカラ



グアで使われている武器は、ベネズエラで暴力グループが使用したものよりももっと強力なものである。暴力を起し、過剰な取り締まりを引き出し、人道的危機にあると宣伝するのはベネズエラと同じシナリオである。ペペ・ムヒカ元大統領は、オルテガ大統領は辞任すべきと言っているが、どれだけニカラグアの事情を知っているのか。

再び大統領候補になりたいというエゴから世論に迎合して言っているのではないかと厳しく反論しました。（カベージョ副議長の発言：

<https://www.youtube.com/watch?v=J8tthLH5-pA&feature=share>）。

また、ウルグアイの拡大戦線は、本年 3 月 11 日に開催された今回のフォーラムの準備作業委員会において文書起草委員会に参加しており、その時サンディニスタ政権を今回批判して

いるような縁故主義政権などとはなんらの批判も行っていませんでした。また7月5日キューバのラジオ・レロホとのフォーラムをめぐるインタビューでも、ムヒカ前大統領は、「ラテンアメリカの左翼の団結が必要」と述べて、サンディニスタ政権への批判はまったくありませんでした。さらに、拡大戦線が、オルテガ大統領の辞任を要求するほど批判しているのであれば、フォーラム期間中、何らかの意思表示ができたはずですが、拡大戦線の発言はありませんでした。拡大戦線からは、ホセ・バヤルディ、拡大戦線国際委員会議長(アルティギスタ党)、ファン・カスティージョ、ウルグアイ共産党書記長などが参加し、代表団はフォーラムの決議に賛成しましたが、拡大戦線の中では少数派でした。拡大戦線の中ではニカラグア問題について意見が分かっていたのです(18.07.19 El Observador Ur)。その後この問題を巡って、拡大戦線の中で、拡大戦線としてフォーラムに留まるべきか、各政党が個別に参加すべきか、議論されています(18.07.23 La Diaria)。(ニカラグアについては、拙稿「今、ニカラグアで起きていること」2018年6月23日参照)。

フォーラムは、新自由主義と米国の干渉政策に反対する現職、元職の指導者、知識人が活発に意見を交換し、「楽観主義、固い決意のもとに最大限に団結して戦いを維持する」ことを確認するものとなりました。

(2018年7月25日 新藤通弘)